



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第30号

発行：レムナントキリスト教会

価格：100円（送料込みで200円）

【目次】

- ◎ 聖書からのメッセージ：「聖書はキリストについて証言している」エレミヤ
- ◎ 聖書と日本語「迷える子羊」
- ◎ イエス・キリストに出会う「イエスと子どもたち」
- ◎ キリストを信じた体験談「クリスチャンになったきっかけ」by S
- ◎ 聖書を信じた有名人のことば：パスカル
- ◎ 聖書贈呈

<聖書からのメッセージ >

「聖書はキリストについて証言している」by エレミヤ

本日は、「聖書はキリストについて証言している」という題でメッセージしたいと思います。

テキストは以下です。

ヨハネ5:39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。

ここに書かれているように、聖書のあらゆる箇所は、イエス・キリストに関して証言しているのです。聖書は、イエス・キリストこそ私たちを救う方であり、死後私たちが自分の罪のゆえに受けようとする罰、火の池など

の罰から救う方であることを語り、証言するのです。また、キリストが私たちの罪が許されるためにご自分の命を犠牲にしたことを証言するのです。

<聖書はイエス・キリストに焦点をあてている>

聖書は厚い本でありそこには多くの有名な人物が登場します。すなわち、アダム、エバ、ノア、アブラハム、モーセ、ダビデ、ソロモンなどです。しかし、その中でも聖書は明らかにイエス・キリストという一人の人に焦点をあてておりその重要性を語ります。

<処女降誕の預言>

たとえばキリストが誕生する700年も前、BC8世紀の預言者イザヤは、キリストが処女から誕生することを預言して以下の様に語ります。

「聖書はキリストについて証言している」エレミヤ

イザヤ7:14 それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。

このようにキリストが処女から生まれるということは何と700年も前から預言されていたことがらだったのです。イエス・キリストが処女マリヤから誕生したことは有名な話です。しかし、それは、作り話でも荒唐無稽な話でもなく、逆にそれは、神がその誕生の700年も前から計画し、預言し、そして実際に歴史の中で成就したいわば、神の計画の中で起きたことなのです。

<銀貨30枚で売られる>

新約聖書はイエス・キリストが裏切り者のユダから裏切られ、そして銀貨30枚で売られたことを記します。以下の通りです。

マタイ 26:14 そのとき、十二弟子のひとりで、イスカリオテ・ユダという者が、祭司長たちのところへ行って、

26:15 こう言った。「彼をあなたがたに売るとしたら、いったいいくらくれますか。」すると、彼らは銀貨三十枚を彼に支払った。

このようにユダは裏切ったのです。さて、この事実、キリストが銀貨30枚で売られるということを他の旧約の預言者ゼカリヤは、その書ゼカリヤ書の中で前もって預言していました。以下のとおりです。

ゼカリヤ11:12 私は彼らに言った。「あなたがたがよいと思うなら、私に賃金を払いなさい。もし、そうでないなら、やめなさい。」すると彼らは、私の賃金として、銀三十シケルを量った。

11:13 主は私に仰せられた。「彼らによってわたしが値積もりされた尊い価を、陶器師に

投げ与えよ。」そこで、私は銀三十を取り、それを主の宮の陶器師に投げ与えた。

ゼカリヤはBC6世紀の人であり、キリストの時代より500年以上前の人なのですが、しかし、このように具体的な値、銀貨30枚という値を預言しているのです。

この箇所では、銀貨30枚で値積もりされた方は神ご自身であることが描かれています。ですので、この箇所を通して、イエス・キリストという方の真の意味合いをも知ることができるのです。キリストは人のかたちをとっているが、実は神ご自身が人のかたちをとって現れた方である、そのことをも知るのであるのです。

これらの事実、イエス・キリストの生涯が実はその誕生の何百年も前から、旧約聖書で預言されたことがらであることを通して私たちは何を知るのでしょうか？一つは人知を超え、時代や時間を超えた神の働き、計画ということです。人の一生はせいぜい100年ほどです。自分の人生の長さを超えた500年も700年も先のことなど、誰もわからないし、操作しようもないのです。しかし、キリストの生涯においては、数百年も前の記述が正確に成就します。これを通して、聖書や、聖書を通して預言されていることは私たち人間の限界や常識を超えていること、人知を超えた神にしか、左右できないことを聖書が扱っていることを理解するのです。

<キリストによる以外に救いはない>

このように旧約聖書の多くの記述はキリストについて証言しており、証していることを私たちは知りました。それでは、新約聖書はどうなのでしょう？新約聖書の代表的な使徒であるペテロはキリストについてこう述べています。

聖書と日本語「迷える子羊」

聖書は日本人にはあまりなじみがないものかもしれませんが、実はそうでもないのです。私達の日ごろ使う言葉の中にも聖書の言葉がたくさん隠れています。普段何気なく使う言葉の中に「迷える子羊」というものがあります。これは人生の中で心迷っている人間のことの喩えとしてよく用いられます。これも聖書がもとになっている言葉です。

ルカ 15章 3～4節

そこでイエスは、彼らにこのようなたとえ話をされた。

「あなたがたのうちに羊を百匹持っている人がいて、そのうちの一匹をなくしたら、その人は、九十九匹を野原に残して、いなくなった一匹を見つけるまで捜し歩かないでしょうか。

ここで、主イエスは羊を人間に例えており、羊飼いをご自分のこととして例えています。イエスは、人生の中で迷いで、さまよう人達を捜しだして、危険や苦しみから助け出し、救ってくださる方なのです。人は、牧者であるイエスに守られて神様の牧場の羊として、安心して過ごすことができるのです。

聖書では、人と神様の関係を、羊と羊飼い、牧者とたとえたところがたくさん出ています。例えば詩編の23編で、「主は私の羊かい。わたしは乏しいことはありません。主は私を緑の牧場に伏させいこいの水のほとりに伴われます。」とあります。またヨハネ10:11

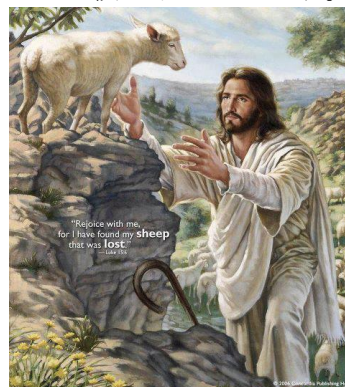
「わたしは良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。」とあります。これらの聖書箇所からも、神様が羊のたとえられている人間のことを愛しいつくしんでおられることが判ります。では人間が喩えられた羊とはどのような生き物でしょうか。

羊は、方向音痴です。人間に毛を刈ってもらわないと毛の重さで具合が悪くなります。目が悪く、影や溝があると立ちすくみます。ひっくり返ると自力で起き上がれず、そのまま死んでしまうこともあります。馬のように早く走れず、牛のように力もありません。羊はヤギと似ています。しかし、ヤギは野生でも

生きていけますが羊は無理です。羊は噛む力もさほどなく、狼に襲われたら身を守ることが不可能です。羊は羊飼いの保護がないと生きられない家畜なのです。このような羊に人間はたとえられています。

しかし人間は宇宙にも行くことができる素晴らしい科学技術を持ち、霊長類最高の知恵ある生き物であり、そこまで弱くないと思う方もいるでしょう。でも実際の所どうでしょうか。大きな地震、大津波、その他でも火山の噴火や台風、土砂崩れ、雪崩、自然の猛威に対して人間が立ち向かえるでしょうか。自然の威力、大災害の中では、本当に人は頼りない生き物であると思わざるを得ません。人は、力があるように見えて実はとても心細い生き物です。普段の便利な生活の中では、そこまで自覚はできないかもしれませんが実際の私たちの姿は、羊のようなのです。そのことを単に自覚していない、ということではないでしょうか。

本当の私たちの姿は、頼りない羊のようであり、羊飼いの保護がないと危険から身を守ることはできない存在なのです。命を保つことができないのです。羊のような私たちは、羊飼いのイエスに頼って生きていくことが命を守ることになります。自分の力のみ頼りとして生きるということは、羊が迷い出て命を失うようなものです。自分の弱さを自覚し、イエスに頼る事が知恵です。



迷える子羊

イエス・キリストに出会う 「イエスと子どもたち」

イエス・キリストは2000年ほど前、イスラエルに救い主として来られました。その時代の人々はイエスと会い、主イエスがどんな方であるのかを自分の目で確かめることができました。そして今は聖書を通してイエス・キリストに出会うことができます。主イエスはどのような方なのでしょう？

マルコ10：13～16

さて、イエスにさわっていただくとして、人々が子どもたちをみもとに連れて来た。ところが、弟子たちは彼らをしかった。イエスはそれをご覧になり、憤って、彼らにいわれた。「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。まことに、あなたがたに告げます。子どものように、神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」そしてイエスは子どもたちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された。

イエスがユダヤ地方とヨルダンの向こうに行かれた時、多くの人々が集まりました。そこで、イエスは彼らに御言葉を教えておられました。そのイエスのもとに幼い子どもたちと親たちが大勢やってきました。子供たちに祝福のお祈りをしてもらおうとしたのです。しかしイエスの弟子たちが親たちを叱り、追い払おうとしました。どうしてでしょう。実は弟子たちも、イエスも休む間もない程多忙な状態だったのです。群衆はイエスを追いかけて、イエスの周りにはおびただしい人々が集まっていました。有名なイエスを一目見たい人、教えを聞きたい人、病をイエスに癒してもらいたい人々が押し寄せていたのです。食事をする暇もない、全く余裕の無い状況です。弟子たちは特に病もなく、緊急性もない子供たちに、わざわざイエスの手を煩わせることはないと考えたのでしょう。子どもたちと親を追い払おうとしました。それを見たイエスは憤られ、弟子たちを叱ります。そしてイエスは、幼い子どもたちを一人ずつ抱かれ、手を置いて祝福のお祈りをされました。イエス

は幼子一人一人を愛され、祝福されたのです。イエスはどのような状況であろうと、ご自分を求めてくる人を決して否みません。イエスに御許に近づこうとする人を愛され、誰であろうと、それが幼い子供であろうと、すべて喜んで受け入れてくださるのです。

また、イエスは、「子どものように、神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」と言われました。子どものものでなければ、天国に入ることはできないとは、どういうことでしょうか。大人は自分の力で生きています。しかし幼子は自分一人では、生きていくことはできません。小さく弱く自分の力がない幼子は親の保護が必要です。幼子はすべてを親に頼り、また、親を信頼しています。イエスはこのような幼子のような者が、天の御国に入れるのだと言います。

人間は大人になると自分の力を信頼して自分の力でなんでもやろうとします。自分の思いや裁量で人生を歩もうとするのです。しかし、本来人間は自分一人の力で生きていくことはできません。人間の力は有限なのです。人は自分の弱さを知り、幼子が親を信頼し全面的に頼るように、救い主であるイエスに頼る時、天の御国に入ることができます。そしてそのような幼子である私たちをイエスは愛し受け入れ祝福してくださいます。



イエスと子供たち

キリストを信じた体験談「クリスチャンになったきっかけ」 by S

私が生まれて初めて教会に行ったのは高校生の時でした。きっかけは友人が習い事をしている、その先生がクリスチャンだということで、クリスマス会に誘われたから一緒に行ってみない？ということでした。友人もそうですが、当時の私も未信者でした。もうだいぶ前のことなのでところどころしか覚えていないのですが、はじめに皆で賛美歌をいくつか歌って、そのあと教会の信者の人たちが一人ずつ前に出て話をしていました。キリスト教用語ではそのことを「証」と言います。

「証」とは、神様がしてくださったことや教えてくださったことについて語ることです。

何人かの人々が代わる代わる証をしていて、その中の一人の人がこんなことを話していました。「私は最近まで職場の人のことでとても悩んでいました。なぜかと言うとある人が私に対してことごとく意地の悪いことを言ったりしたりするからです。それで神様に“なんとか良い解決へと導いてください”とお祈りしました。そうしたらしばらくして、その人は会社を辞めることになりました。色々大変だったけれど、神様が助けてくれました」ということを話していました。話を聞いて、「へえーっ、神様ってすごい。お祈りしたら答えてくださるだあ」と感動しました。

それ以来、しばらく教会のことは忘れていたのですが、約一年後、私は病気のために手術をすることになりました。同室の人たちに「とにかくオペが終わったあとが大変だから」という話を聞き、少し不安に思いました。手術の日の前日の夕方、私は一人で病棟の屋

上に行きました。明日はいよいよ手術だけど大丈夫かなあ？という思いを抱きながら、どうしたらいいだろう？と考えていました。ふと、その時にクリスマス会で聞いた話をなんとなく思い出しました。

そしてとっさに「私はクリスチャンではありませんが、神様が、もし本当にいらっしゃるのでしたら、どうか私のお祈りを聞いてください。明日の手術がとても大変だと聞いています。特に終わったあとが辛いそうです。よろしかったら、ぜひお守りください」という風にお祈りしました。そして手術の当日を迎えました。局部麻酔だったので、しかも時間が若干長かったので手術中はかなり辛かったのですが、ただ不思議にも手術後の経過は比較的順調でした。

まったく辛くなかったか？と聞かれれば、多少の苦痛はありましたが、思っていたよりも楽でした。そして何よりも、「神様が、こんな私のお祈りにも答えてくださった。守ってくださった。きっと神様はいるんだろうなあ」と思い、とても嬉しくなりました。

その時は全く知らなかったのですが、随分あとになって、聖書にこのような御言葉が書かれているのを知ってびっくりしました。

“また、あなたの民イスラエルの者でない外国人についても、彼があなたの御名のゆえに、遠方の地から来て、彼らは、あなたの大いなる御名と、力強い御手と、伸べられた腕について聞きますから。この宮に来て祈るとき、あなたご自身が、あなたの御住まいの所である天でこれを聞き、その外国人があなたに向かって願うことをすべてかなえてください。

キリストを信じた体験談 「クリスチャンになったきっかけ」 by S

そうすれば、この地のすべての民が御名を知り、あなたの民イスラエルと同じように、あなたを恐れるようになり、私の建てたこの宮では、御名が呼び求められなくてはならないことを知るようになるでしょう。”

(旧約聖書〔新改訳〕：I 列王記8章41－43節)

聖書の記述には多くのたとえが使われているのですが、“外国人”とは、神様を知らない異邦人、つまり未信者のことを指します。このことはダビデ王の子どものソロモン王という人が神様に捧げているお祈りの一部です。意味合いとしてはこういうことです。

“イスラエル”とは、今で言うクリスチャンを指します。つまりクリスチャンでない未信者の人が神様に向けてお祈りをするときに、そのことを神様がお聞き届けてくださって願うことを叶えてくださいというお祈りをソロモン王は神様に捧げたのです。また、“ソロモン”という名前にもたとえの意味合いがあつて、“ソロモン”は、「聖霊(神様の霊)」に、たとえられています。ゆえにそのお祈りは神様の前に受理されたことが理解できます。このことから、たとえ過去の私のように未信者の人であっても、心から神様に願い、祈り求めていくときに、神様がお聞き届けてくださり、祈りに答えてくださるのだということが分かりますよね。今でももちろんそうなのですが、色々振り返ってみても、本当に神様は誠実で素晴らしいお方なんだなあと思わされます。

話はそれでしたが、それから半年後、私はあることをきっかけに自宅の近くの教会に行くことになりました。イエス様のことは多少なりとも知っていましたが、教会と神様がイエス様と密接な関わりがあるということについては知りませんでした。でも、毎週礼拝に行くようになって、父なる神様＝御子イエス・キリスト＝聖霊＝聖書ということを理屈抜きで理解するようになって、イエス・キリストが自分の救い主で

あり主であることを信じて受け入れて、さらにその一年後には洗礼を受けてクリスチャンになりました。

かつては仏教を信じ、毎年のように初詣にも通っていたのですが、そういったこととも縁を切りました。クリスチャンになるまでの間に神様は様々な方法を通して、御自身がおられることを私にアプローチされていたんだなあということを強く感じました。それから今日に至るまで数々のことを主イエス・キリストにあつて体験させていただいていますが、クリスチャンになって本当に良かったなあと思っています。これからも、神様が与えてくださった「救い」の贈り物に感謝してイエス様と共に歩んでいきたいと思っています。最後に聖書の言葉を引用させていただき、証を終わらせていただきます。

“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。”

(新約聖書〔新改訳〕：ローマ人への手紙10章9節)



祈り

聖書に関する有名人のことば：パスカル (フランス哲学者、数学者)



「私は、もしも彼ら自身の記述のゆえに喉をかき切られることになった、これらの(聖書の)著者たちを信じたい」

<お知らせコーナー>

●聖書贈呈プレゼント!

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか?少し、聖書に興味がわいてきましたでしょうか?このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか?ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

以下を記載の上、mail:truth216@nifty.comもしくはfax:020-4623-5255もしくはtel:042-364-2327へ連絡ください。

郵便番号:

住所:

名前:

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

見本

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com



★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoj.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>